

和服の柄合わせに関する研究(第2報)

Study on matching patterns of Kimono (Part 2)

渡部 葉¹

¹大妻女子大学大学院人間文化研究科人間生活科学専攻

Shiori Watanabe¹

¹Master's Program for Studies in Human Life Sciences, Graduate School of Studies in Human Culture,
Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：柄合わせ, 浴衣, 着物

Key words : Matching patterns, Yukata, Kimono

抄録

浴衣の製作において初心者が特に苦勞する事として、縫いに入る前段階である「裁断や柄合わせ」が挙げられる。布の裁断が速やかにできるような支援するための方法はこれまでもいくつか研究されている。しかし、いずれの方法も実際に講義で使う際などには課題を抱えている点も多く、一般化されていないのが現状である。

そこで本研究では、着装時に柄ゆきが良い浴衣を製作できる反物の裁断法を見出し、和裁初心者でも柄合わせを簡単に行える手法について考察した。研究対象には代表的な浴衣地である注染(ちゅうせん)染めの反物を取り上げ、着装状態での浴衣の柄合わせの考察を試みた。さらに裁断・柄合わせの作業をスムーズに進めるための「柄合わせマニュアル」を制作し、その有用性を検討した。

1. はじめに

近年、若者の浴衣への関心は高い。和裁初心者が最初に仕立てる和服が、浴衣である場合も多い。

浴衣を仕立てるに際して、最初に行われる作業が「柄合わせ」である。柄合わせは、着装時に同じ柄が並んでしまったり、空白ができてしまったりすることを防ぐために行う。浴衣の反物は大柄であることが多いため、柄合わせは、縫製後の柄の配置を考える重要な工程であると言える。

しかし、浴衣の構造についての理解がまだ浅い和裁初心者にとって、柄合わせの作業は容易でなく、反物から浴衣を仕立てることに抵抗を感じる者も少なくない。

さらに、大学講義等では裁断と柄合わせの作業に割ける時間が十分でない場合が多い。そのような状況下で行う浴衣の製作は、柄合わせの失敗を招き、出来上がりの柄ゆきが良くない為に、折角初めて自分で仕立てた浴衣をほとんど着装しない、という事になりかねない。

2. 本研究の目的

前項で述べた問題を解決するべく、本研究では初心者が速やかに適切な柄合わせが得られ、良い柄ゆきの浴衣を仕立てられる“柄合わせマニュアル”の制作を試みた。

第1報では、注染反物を扱うHPから収集した反物の画像を用いて、反物の各箇所寸法測定や、柄ゆきの分類などを経て注染浴衣地の現状調査を行った。さらに、浴衣の着装時の柄ゆきを考察するために、図1に示すような反物の画像から浴衣を着装した状態を再現する手段である「着姿シミュレーション」、図2に示すような着姿から裁断前の反物の柄ゆきを再現する「展開シミュレーション」の考案についても報告した^[1]。

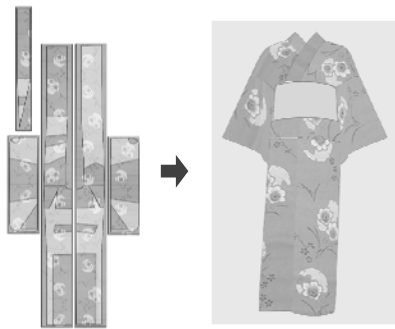


図1.着姿シミュレーションの考案

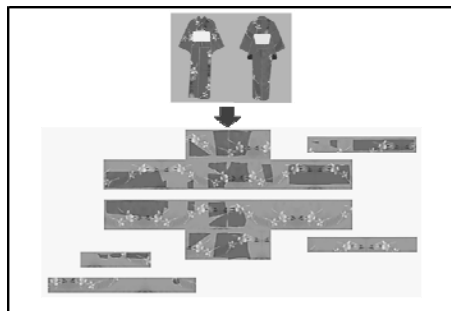


図2.展開シミュレーションの考案

第2報では、これらのシミュレーション手法と調査の結果から制作した「モデル反物」を用いて以降に述べる条件1～5を満たす柄合わせの手法を考察した。そして、その手法を元に制作した柄合わせマニュアルに従って浴衣を縫製した結果及び考察について報告する。

3. 研究方法

3-1.着姿シミュレーションの再現度の確認

第1報で報告した着姿シミュレーションの際限度を確認するべく、実物の浴衣を用いて比較を行った。

まず、実際の反物の柄1単位をカメラで撮影し、Photoshopで12mの反物の画像を作成した。その反物画像を着姿シミュレーションにかけ、着姿の画像に加工した。一方、実際の反物もシミュレーションと同じ方法で柄合わせを行い、トルソーに着せ、その様子を撮影した。その後、シミュレーションと実物浴衣の着姿の柄ゆきを見比べ、再現度のより高い部位がどこであるかを検討した。

3-2.考察に用いる、モデル反物の作成

より多くの反物に当てはまる考察をするため、第1報で行った注染反物の画像調査の結果より、総丈が12m、幅が38.3cm、柄の1単位の長さが101cm

の平均的な寸法の、柄の流れが2山型のモデル反物を作成した(図3)。また、柄1単位は、柄の流れの描く軌跡の各山と両端の計4か所に、4つの異なる記号を割り振った。

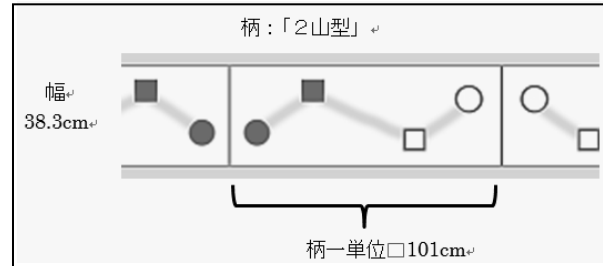


図3.モデル反物

3-3.良い柄ゆきの条件設定

和裁の書物には「とび模様の場合の柄合わせは上前身頃の胸元にポイントを置き、後ろ身頃は背縫いの両側に同じ模様が並ばないようにする。」という記述がある^[2]。また、先行研究では「和裁熟練者や一般の和裁授業において行われる方法」のことを「背中心で左右身頃の柄を交互に配置する方法」としている^[3]。そして、着姿シミュレーションの再現度の確認の結果より、本研究で考察に用いるシミュレーションは、おはしより下部や袖等、平面的で「柄の見えやすい部分」の柄をある程度再現できることが分かった。

以上のことから、表1のような条件を「本研究が目指す良い柄合わせ」と設定した。

表1.本研究に置ける良い柄合わせの条件設定

条件1	「左おくみ、右後袖、左前袖に限り、中央部に山が来るようにする」
条件2	「隣のパーツと山同士が水平にそろわないようにする」
条件3	「柄が反転される一単位の型の境目が、左おくみ・左身頃前膝・右身頃後膝・右後・左前袖の中央等の目立つところに来ないようにする」
条件4	「同じ山が近くに来ないようにする」
条件5	「空白が大きくできないようにする」

3-4.マニュアル化する裁断法の考察

a)着姿での理想的な柄の条件設定と型紙への反映

条件1・2を満たすように左おくみ・左身頃・右身頃・両袖について柄の山の位置を設定した。

図4のように、着姿のひな型の各部位について山が来るべき位置に網掛けをし、その後展開シミュレーションで各パーツの反物状態での山の位置を型紙に反映させて“網掛け入り型紙”を作成した。

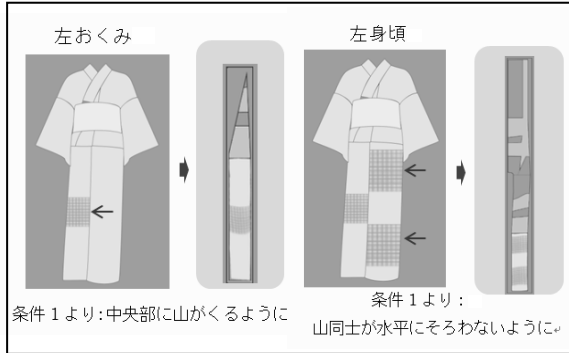


図4.網掛け入り型紙の作製手順

b) 網掛け入り型紙でモデル反物から裁断方法の候補を選出

図5に示すように、半透明にした網掛け入り型紙をモデル反物の上に重ね、網掛け部に柄の山が来て、かつ条件3を満たす裁断の具体的な裁断法の候補をモデル反物から選出した。

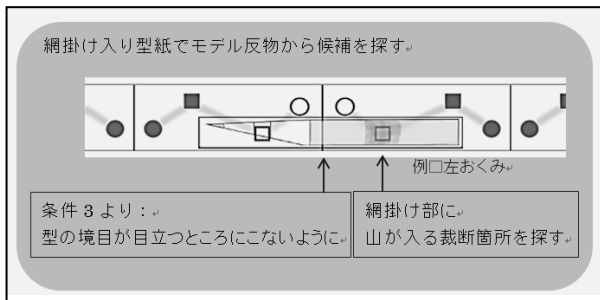


図5.型紙を使用した裁断方法候補の選出操作

c) 選出したパーツ同士の相性を着姿で評価

選出された裁断法の候補から、隣り合うパーツ同士の柄ゆきの相性が良い組み合わせを着姿シミュレーションを用いて考察した(図6)。その際、条件4・5に準じて評価柄ゆきの良し悪しの評価を行った。

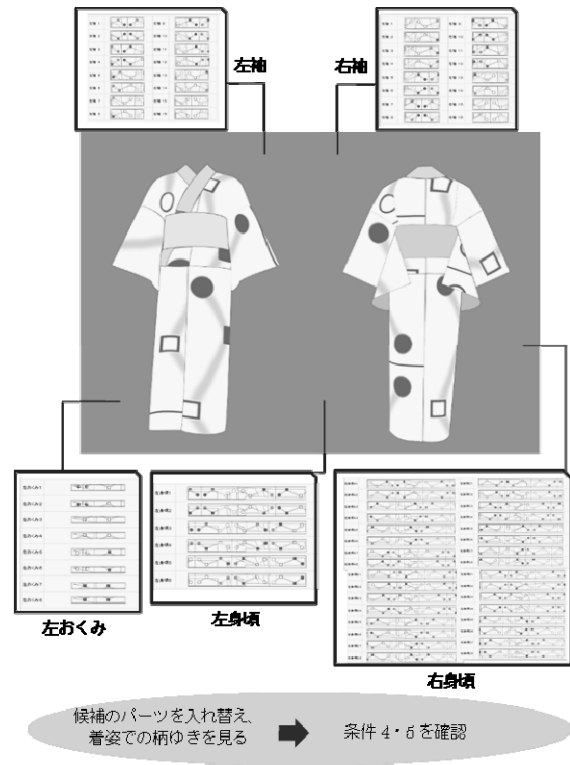


図6.柄ゆきの相性の考察操作イメージ

d) 実現可能な裁断法の確認

実際に12mの反物から裁断可能な組み合わせの確認を行った。柄合わせに有効な並び順とされる表2のようなM-1～M-7の順番を試した。

表2.裁断の可否を確認した裁断順7種

M-1:(身頃・身頃・おくみ・袖・袖)	M-2:(身頃・身頃・袖・おくみ・袖)
M-3:(身頃・身頃・袖・袖・おくみ)	M-4:(身頃・おくみ・袖・袖・身頃)
M-5:(身頃・おくみ・身頃・袖・袖)	M-6:(身頃・おくみ・袖・身頃・袖)
M-7:(身頃・袖・袖・おくみ・身頃)	

e) 残った組み合わせの候補を分析・1組に絞る

残った5組の中から、マニュアルに採用する組み合わせを1つに絞った。

3-5. マニュアル化

以上の操作から、マニュアル化する裁断法が決定した。その手法を元に、柄合わせマニュアルを制作した。

マニュアルは「1.対応できる反物や、完成する浴衣の寸法の説明」、「2.手持ちの反物が該当するタイプを確認。」、「3.各タイプの裁断箇所の決定・糸印の仕方・裁断・布の合わせ方の確認・完成した浴衣の着姿予想図」という構成にした。

4. 結果および考察

4-1. 着姿シミュレーションの再現度の確認

図7に示すように、上身頃等凹凸のある部分は若干柄のずれが生じたが、これは着装の方法の差等から生じているものと推測される。しかし、おはしより下部や袖等、平面的で“柄の見えやすい部分”は、シミュレーションによってある程度柄ゆきが再現でき、おはしより下部や袖の柄ゆきの部分の考察には着姿シミュレーションはある程度有効な手法と考えられた。この部分は伝統的な柄合わせの仕方でも特に重要視される傾向があるため、本研究では、このプログラムを用いてその部位についての柄合わせを考察していくことにした。



図7.シミュレーションと実物の比較

4-2. 考察に用いる、モデル反物の作成

実際の反物は柄の1単位丁度から始まらないことも多いため、どの山からスタートするかで図8のように、「山●■□のそれぞれから始まる反物」の計8種類のモデル反物を制作した。これらすべてに適応できる裁断・柄合わせの手法を考察することで、より多くの反物に適応できる柄合わせの手法を見出すことができるようになった。

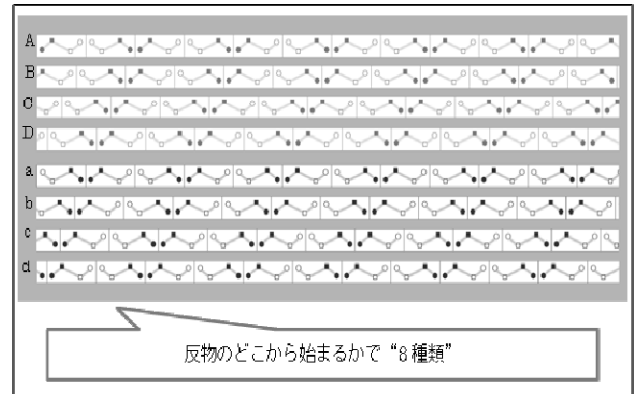


図8.モデル反物8種

4-3. マニュアル化する裁断法の考察

a) 着姿での理想的な柄の条件設定と型紙への反映

図9のように各パーツについて反物状態での理想的山の位置が反映された“網掛け入り型紙”が完成した。網掛け入り型紙により、モデル反物から条件1・2を満たす裁断方法を採用できるようになった。

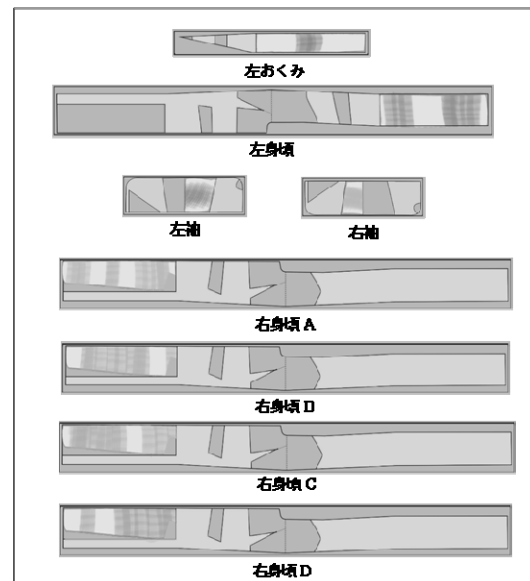


図9.完成した網掛け入り型紙

b) 網掛け入り型紙でモデル反物から裁断方法候補を選出

この操作により、図10に示すように本研究が反物状態で目指す左おくみ・両身頃・両袖について理想的柄ゆきにするための裁断方法の候補が出揃った。これらの組み合わせによって、良い柄合わせの着姿を考察できるようになった。

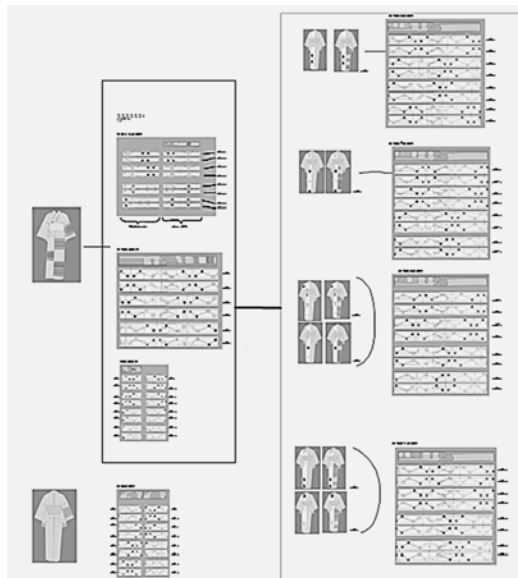


図10.各パーツの裁断法候補

c)選出したパーツ同士の相性を着姿で評価

型紙の網掛け部に山が入る場合でも、隣のパーツ同士で、同じ柄が近くに来てしまう、空白が大きく空いてしまう等、条件を満たさない柄ゆきの組み合わせも存在した。

理想的パーツの組み合わせがあること、そして、その組み合わせが判明した。

d)実現可能な裁断法の確認

実際に裁断できたパーツの組み合わせは61組であった。その中でも、モデル反物8種に対応できた組み合わせは5組存在することが分かった。

e)残った組み合わせの候補を分析・1組に絞る

どのモデル反物を使用した場合でも、縫製後が同じ着姿になる点がマニュアル化に望ましいとの考えから、最終的にこの5組の中からマニュアル化する1組を決定することにした。

裁断の際、なるべく各パーツ間に余裕があるほうが、パーツを左右にずらす等の融通が利く。その点を考慮した結果、有効とされる組み合わせは1つに絞られ、その手法をマニュアルに採用することにした。

4-4.マニュアル化

完成したマニュアルは、全6ページ、前半で染料反物の柄行きに関する基礎知識について学び、手元の反物の始まり方に合わせて、A~Dの4パターン of 裁断順が後半のページで示されている(図11)。

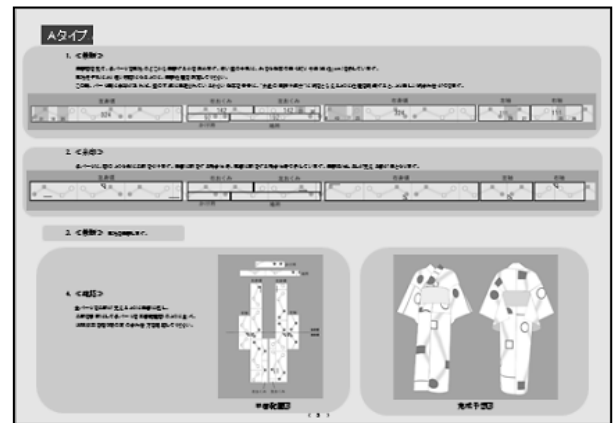


図11.柄合わせマニュアル

最後に、制作したマニュアルに従い、反物の裁断・柄合わせ・縫製を行った(図12)。従来の“裁断の前に平面で並べて柄合わせを試行錯誤する操作”を一切行わずに、ほぼマニュアル通りの柄ゆきの浴衣を縫製することができた。



図12.マニュアルに従い縫製した浴衣の前後姿

5. 終わりに

実際にマニュアルに従い浴衣を仕立ててみた結果、ほぼマニュアル通りの柄ゆきの浴衣を仕立てることができた。マニュアルに従い行う柄合わせには、表3に示すようなメリットが考えられる。

表3.柄合わせマニュアルのメリット

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① マニュアル配布が安易である。 ② マニュアル化により柄合わせのセンスが不要。 ③ 今後の作業の流れがイメージしやすい。 |
|---|

今後の課題としては、初心者が本マニュアルを手にしたときに、きちんとマニュアルの指示する通りの操作が行えるかの検証が挙げられる。

また、今回制作したマニュアルは、注染で柄が2山型を描く反物の場合のみを想定している。その為、同様の手法が他の柄ゆきの注染反物の場合にも応用できるかどうかの考察をする必要がある。

付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所大学院生研究助成(A)(DA2717)により研究助成を受けた。

参考文献

- [1] 渡部 葉. 和服の柄合わせに関する研究.
International Journal of Human Culture Studies
(人間生活文化研究). 2015, №25, p182-185.
- [2] 滝沢ヒロ子. 仕立てやすく実力のつく和服裁縫.
婦人生活社, 1986, p63.
- [3] 田中早苗. コンピュータによる浴衣の仕上がり
画像の作成. 東京家政大学研究紀要. 第43集
(2), 2003, p87

Abstract

When production of the *yukata*, beginner has a particularly hard time “cutting and pattern matching” of the stage before sewing. Already, there are some of studies that methods to support it to be able to cutting of the cloth immediately. However, both methods have some problems when it really used by a lecture, and it isn't generalized under the present conditions.

Therefore, I made a study about how should I cut roll of cloth to sew *yukata* has good look of a design when wear it, and simple method when beginners perform pattern matching of the *yukata*. I picked up *Tyusen-yukatazi* the representative cloth used for a *yukata*, and made a study about pattern matching of *yukata* when wear it. Furthermore, I made a "Matching pattern manual" for smooth cutting and pattern matching, and examined usefulness it.

(受付日：2016年7月5日，受理日：2016年7月14日)

渡部 葉 (わたなべ しおり)

大妻女子大学大学院人間文化研究科人間生活科学専攻修士課程修了。